

令和5年度 第1回芦屋市立美術博物館協議会 会議録

日 時	令和5年4月18日（火） 14：00～16：00
場 所	芦屋市立美術博物館 エントランス・ホール 歴史資料展示室
出 席 者	会 長 藪田 貫 副会長 岡 泰正 委 員 飯尾 由貴子 委 員 梶本 和男 委 員 山下 綾子 委 員 安部 太一郎 委 員 興津 厚志
欠 席 者	委 員 若林 敬子 （芦屋市立美術博物館指定管理者） 館 長 石井 茂（株式会社小学館集英社プロダクション） 学芸員 山本 剛史（株式会社小学館集英社プロダクション） （事務局） 社会教育室長 田嶋 修 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋 生涯学習課文化財係員 松本 淳子
事 務 局	生涯学習課
会議の公開	■ 公開
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

- （1） 社会教育室長あいさつ
- （2） 委嘱状交付
- （3） 会長及び副会長選出
- （4） 報告
 - 1） 令和4年度事業報告について
- （5） 議題
 - 1） リニューアルオープンについて
 - 2） 令和4年度事業報告について
 - 3） 令和5年度事業計画について
- （6） その他

2 提出資料

会議次第

資料1 芦屋市立美術博物館運営基本方針

【指定管理者からの資料】

資料A 芦屋市立美術博物館 2023 年度 事業計画書

資料B 芦屋市立美術博物館 2023 年度 展覧会予定

資料C 芦屋市立美術博物館 2022 年度 事業報告書

資料D 芦屋市立美術博物館 2022 年度 展覧会動員実績

資料E 芦屋市立美術博物館 2022 年度 入館者数内訳

3 議題報告

(藪田会長)

それでは、本日の次第に従いまして、ただ今から議事に入ります。はじめに、(1)「リニューアルオープン」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局：竹村)

美術博物館は、1991年の開館より30年以上が経過し施設の老朽化が進んでいたことから、施設の保全・長寿命化を図るため、昨年の7月1日より休館し、施設・設備の改修工事を実施しました。そして、今年の4月15日(日)にリニューアルオープンしております。

改修工事の主な内容は、屋根改修・屋上防水改修・外壁改修・空調換気設備改修・トイレ改修・受変電設備改修・消防設備改修等となっております。また、今回の改修工事にあわせて、歴史資料展示室を充実させています。その具体的内容につきましては、歴史資料展示室に移動していただき、実際に見ていただきながら、山本学芸員から説明させていただきます。

<歴史資料展示室に移動し、山本学芸員が説明>

(岡副会長)

福田眉仙の掛軸と『伊勢物語画帖』のように歴史資料の実物を展示するのは良いと思っていますが、オリジナルの作品が出ていますよね。ルクス、照度は測りましたか。これらが受けているのはかなりの照度になると思います。3日、1週間だけの展示でしたらありますが、版本と土器の照明が一緒になっているのは良くないです。一般的に明るくて良いと思われるのが、オリジナルを出している時の照度の問題です。『イラストレイテッド・ロンドンニュース』も同じです。版本とか近代の紙資料は、特に顔料がある資料は、出しっぱなしだと劣化します。博物館学としてどうあるべきか問題になってくるし、それをどう見せるか、照明の下に紙みたいな物を入れて照度を抑えるかして、展示物のそばを照度計で測った方がいいです。せめて100ルクス以下まで落とした方が、博物館学をわかっている人が展示しているということになります。この正面で受ける照明は一番まとまなので、照度計で測るとびっくりすると思います。ここはLEDにしたんですかね。紫外線は出ないですが、絵画が打出焼と同じコンディションであるのは良くない。打出焼は劣化しないから。博物館、美術館の人間は、保存と展示との闘いなのでご理解いただきたいと思います。

(事務局：竹村)

照度については、至急検討します。

(岡副会長)

打出焼と土器、版本の『摂津名所図会』、絵画の『伊勢物語画帖』で、照明にメリハリをつけたら良いと思います。

しかし、照明は両立が出来ません。展示全体が暗くなると文字が読めない等、色々な問題が出てきます。全体が暗くなると文字が読めないで、その辺りをどうするか、照明を一本抜くとかで対策することになります。紙資料を出すとなると、このことは課題となります。

あとと思ったことは、六麓荘のパンフレットの文字が読めません。拡大鏡がないといけません。読みたいと思う人は欲求不満になるので、空いているスペースに拡大コピーでもして読めるようにしないと目の検査みたいになってしまいます。展示するのであれば、読める場所に置いた方がいいです。読めないならパネルで拡大して読めるようにしないと、何のために並べているのか、ということになってしまいます。

(興津委員)

ここの「さわってみよう」のハンズオンのコーナーは、実物の土器の破片ですか？

(山本学芸員)

実物です。

(興津委員)

実物が置いてあるのですが、ここには監視カメラとかあるのですか？

(岡副会長)

実物についてはテグスで縛って持って行かれないようにしないといけません。監視カメラでは抑制できない場合があるので、あるいはずっと監視員がいるようにしないといけません。

(興津委員)

小学生にも分かるようにというコンセプトでしたが、常設の展示と企画の展示に分かれています。すべて小学生に分かるように企画展示をしていくということですか。

(事務局：竹村)

本来、小学生に向けた展示をコンセプトにしていますが、企画の箇所だけは使い分けをすることがあります。原則は、小学生の校外学習などを意識しながら展示をしていきたいと思っていますが、内容が難しい記念や周年事業の時は、大人にも見てほしいと思うと難しくなることもあります。興津委員がおっしゃったように、常設の展示は基本的に変わらないが、企画の展示だけが、柔軟に対応させていただくことになると思います。

(岡副会長)

近代の椅子やテーブルの展示では、床に直に置かれているが、モダン文化ということであれば、床と縁を切って高い台の上に載せるか、資料としての格を造って見せるか。同じ床に仕切りもなしに置いてしまうのは良くないです。予算がないのであれば、アクリルパネルを敷くとか、とにかく、「これらは展示品です」ということで、豪華な意味合いをもたせる必要があります。博物館資料的なリスペクトがないように思ってしまうので、そのコンセプト、何のためにここに置いているのかが伝わってこないです。

(飯尾委員)

あと、スポットライト一つ当てるだけでも全然違うと思います。

(岡副会長)

いきなり「椅子に座らないでください」の注意書きがテーブルの上に置いてあるのが田舎臭い、もう少しおしゃれにやらないといけません。いくらでもやり方があります。例えば、展示物を正面

に向けずに傾けて配置するとか、色んなやり方があります。その当時のモダンライフとしての室内写真を、スペースが空いているのだから見せるとか、絨毯を敷くとか、もう少し格を上げてあげないと、展示品として見栄えが良くないです。

（藪田会長）

これらは寄贈を受けたものですね。古代の出土遺物はどこの遺跡から出たのかキャプションに書いてあるので、同じように、これらはどこで使われていたものなのか記した方が良いです。芦屋の誰から寄贈いただいたかを明記すると、どこで使われていたのかがわかるから、身近なものに感じ、その臨場感が情報として入った方が良いです。いつ誰から寄贈されたものなのか。

（梶本委員）

もし製造年がわかるのであれば、昭和何年製と明記されていると、もう少し親しみが出ると思います。

（岡副会長）

当時としては、いくら値段だったとか、そういうことで、子どもたちの気持ちが「へー」となります。「こんなの、うちにもあるよ」というのではなく、その当時としては、大変高価なものであるということが伝わります。谷崎潤一郎との兼ね合いでモダンライフで、豪華なものに対してのリスペクトが出るように何か工夫をする必要があります。家具、コーヒーカップを置くなら、触れないように被せたケースで閉じ込めてしまうような方法を考えて、完全にアクリルでおさえるとか、そうしないと持って帰られるので。そこで食事をしたり、お茶を飲んだりという情景が思い浮かぶような展示をしないと、再現展示になってないです。

（安部委員）

前の会議でルビを打ってほしいと何回か前から言っていたので、それぞれのパネルにルビが入っていたので、子どもに分かりやすくなったので、良くなったと思います。ここに触れるものも置いたらどうかと言いましたが、こういう形でハンズオンのコーナーができたのが良いと思います。岡副会長が言ったようにパッと持っていく。大人だけでなく、子どもも持っていくかもしれないので、取られないようにする必要があります。あと、子どもが来た時に、見るだけでは子どもは情報量が多くて忘れてしまうので、ワークシートを用意していただいて、「発見した事を書こう」というのを用意してもらって、クイズ形式にするとか、それぞれの企画展でそういう工夫があれば、子どもの見るという視点が変わってくると思います。あと、入って来る時は、雰囲気が変わったなと感じましたが、あの展示ガラスケースは何なのか。子どもは小さい子もいるので、覗かないと何かわからないので、入って来る時からワクワクする、面白そうだなという演出があれば、体験ブースを入れてみるとかすると変わってくるのではないかと思います。ルビがあって、ハンズオンコーナーができて良くなったと思います。

（事務局：竹村）

ワークシートは、これから準備していきたいと思います。

（藪田会長）

遺構の剥ぎ取り展示が3つありますが、開館当時、これをしたのはすごいと思います。考古学としてはとても良い展示手法だと思いますが、説明がないとわかりません。説明がないと、誰かが勝手に作った作品だと思われてしまいます。発掘調査現場から実物を剥ぎ取って持って帰ってきたという、ある意味、芦屋の考古学の実績の一つだと思うので、剥ぎ取り展示を説明すると良いと思います。

(岡副会長)

照明は、改修前のハロゲンのスポットライトも混ぜて使っているのですか。

(山本学芸員)

古いハロゲンも残っています。

(岡副会長)

この打出焼と福田眉仙に当たっている照明は、必要ないです。これはLEDですか。

(山本学芸員)

LEDです。

(岡副会長)

スポットライトは、取り除いた方が良いです。この照明は、まともに当たってしまっています。照明がものすごい明るいからびっくりしました。照明はハロゲンを混ぜずに、LEDに統一した方がいいです。ハロゲンランプを使うと、室内も熱くなってしまいます。

(藪田会長)

スポットライトは、4本もいません。2本ぐらいでいいと思います。

(飯尾委員)

作品保護のために、照明を一部暗くした方がいいです。

(梶本委員)

適正な照度は、どれぐらいなんですか。

(岡副会長)

絵画は100ルクス程度、油絵は150ルクスで200ルクスは超えないようにしています。浮世絵は50ルクス。しかし、50ルクスだと新聞も読めないぐらいの暗さで、今度は見えないと苦情が出ます。ですから70～100ルクス以下ぐらいの間ぐらいです。一か月ぐらい展示したら、展示替をするとかでしたら良いと思います。博物館としては、後世に良好な状態で作品を残さないといけない使命がありますので。しかし、そういう風にやっていると、最後にはパネルばかりになってしまって、そうすると実物が無い展示になってしまうので、見てもだんだんとおもしろくなくなってしまいます。そのために照明の照度管理が必要なのです。

(興津委員)

展示品は、地震が起きても大丈夫ですか。

(事務局：竹村)

今後、地震対策もしていきたいと思います。

<歴史資料展示室から講義室に戻る>

(事務局：田嶋室長)

ご意見ありがとうございました。今回のリニューアルでは、再開館日の前日ギリギリまで展示作業をしていたということで突貫のところがございましたが、逆にリニューアルしてから早い段階で足りないところをご意見・ご指摘いただいたので、その点について日々改善していきたいと思っています。

(藪田会長)

展示室でご意見頂きましたが、他にご意見あるでしょうか。

(岡副会長)

心配しているのは、リニューアルオープンした事が、外に発信できていないことです。テレビなどメディアでは見えていないです。本来なら、メディアがとびつくような話題ですが、知られていません。広報宣伝に問題があります。せっかくのリニューアルオープンということで、どう変わったか見たいというのが自然なので、市民にどうアピールするか、広報していくかが大事です。それで皆で支えていくということがないといけません。芦屋市にとっては誇りのあることだと思うので、芦屋市民の方や市長に働きかけてもらって、せめてケーブルテレビなどで特集をしていただくことが重要です。私の周りがリニューアルオープンについて知らなかったのも、残念に思いました。

(事務局：田嶋室長)

それについては、芦屋市の教育委員会に限らず芦屋市の弱いところだと思います。今回のリニューアルオープンについては、『広報あしや』5月号で特集を組んで広報させていただくことになっています。それとケーブルテレビの芦屋市広報チャンネルでも、次の回に今回のリニューアルについてトピックスと特集を放映させていただく予定になっています。広報番組は、芦屋市、宝塚市、神戸市東灘区あたりで見ることができますので、市内に限らず芦屋市近隣にお住まいの方も観て来ていただきたいです。これらに限らず、広報は頑張っていきたいと考えております。

(興津委員)

広報についてですが、今のところあまり変わったと思わないです。美術博物館のFacebookは2020年以降更新がされていません。SNS関係については、あまり力を入れていないと思いました。Twitterはあげられているようですが、何か調べようとした時に、ホームページのみで、Facebookはされていません。隣の市立図書館に大勢人が来ている時にワークショップなどをPRすれば良いと思いますが、それもされていません。できるところは、お金がかからないところは、もっとした方が良いと思います。

(山下委員)

子どもに美術館はピンときません。広報もそうですが、子どもに美術館に興味を持ってもらうのが一番大事です。今回、学校の校外学習でもというお話があったので、学校から行ける機会が多ければ良いと思います。昭和の生活道具などを学校で勉強して自分たちでパネルを作って発表する機会があったので、そういう授業の一環として、学校から来て、そこで美術館は楽しいと子どもに興味を持ってもらえれば、足を運ぶかと思います。

(藪田会長)

一通り意見をいただきましたので、次に進みます。

次に(2)「令和4年度事業報告」について、事務局より説明をお願いします。

(石井館長)

<資料を用いて説明>

(安部委員)

<山手小学校でのワークショップを説明>

(藪田会長)

事務局の説明が終わりました。何かご質問、ご意見はございませんか？

(興津委員)

入館者数内訳統計表ですが、総観覧者数が3,500人でその他が1,500人となっていますが、その他は何ですか？総観覧者以外の利用者というのは。

(石井館長)

その他というのは、庭を利用された人数、講義室を使った利用者人数、体験学習室を使った人数が入っています。

(興津委員)

芦屋市立美術博物館の事業報告書2ページの総入館者数は5,170人で同じだが、常設企画展合計が4,637人になっていて、観覧者数の人数が合わないと思いました。こちらの表では、4,637人が利用者数になっていて、入館者数内訳では観覧者が3,598人になっている。その他でどう調整されているのかわからなかったので聞きました。齟齬が大きいと思いました。庭などの利用だと常設企画展の利用には入らないと思いました。

(藪田会長)

出前授業で山手小学校に行かれた数値はどこかに入っていますか

(石井館長)

入っていません。

(藪田会長)

もし、これからも学校に行って出前授業を続けられるなら、欄を作った方が良いです。

(石井館長)

数字はもう一度確認して間違いのないように今月中に提出します。ありがとうございました。

(藪田会長)

続きまして、(3)「令和5年度事業計画」について、事務局より説明をお願いします。

(石井館長)

<資料を用いて説明>

(山本学芸員)

<資料を用いて、展覧会予定を説明>

(藪田会長)

事務局の説明が終わりました。何かご質問、ご意見はございませんか？

(岡副会長)

月岡芳年の展覧会は昔はデパートでやっていましたが、最近は海外で人気が高まってきているので、奇想の絵師、河鍋晩斎を最後の浮世絵師というのか、月岡芳年をいうのかですが。これは全国展開の展覧会ですか？

(石井館長)

そうです。企画会社が回っています。

(藪田会長)

数は何点ぐらいですか

(石井館長)

150点ほどです。

(岡副会長)

コレクションによりますが全部、浮世絵ではないと思いますが、掛軸や幟、幕などはケース展示しないといけませんが、どうするのですか？

(山本学芸員)

すべて浮世絵です。

(岡副会長)

すべて版画なのですね。コレクションの詳細はわかりませんが、期待しています。それこそ暗くしないといけないと思います。また、70ルクスという照明の調光の問題が出てくると思います。

(藪田会長)

観覧料は、どういう値段設定ですか？

(石井館長)

一般の方は、1,000円です。65歳以上は芦屋市在住以外でも半額です。浮世絵展はこれまでに何回かしましたが、久しぶりの浮世絵展になりますので、ぜひ皆さんに来ていただきたいと思います。

(岡副会長)

浮世絵の場合、調光しないといけないから、壁にあてるという事は、スポットライトを絞らないといけません。今回、全部、LEDにされていないですよね？昔のスポットを使うということですか？

(石井館長)

その辺は企画会社とも連携していますので、相談しながら行いたいと思います。

(岡副会長)

スポットライトも巡回するのですか。

(石井館長)

それは当館にあるものを使用します。

(岡副会長)

リニューアルに合わせてスポットを全部替えましたか？

(石井館長)

そうです。

(岡副会長)

LEDではなく、ハロゲンですか？

(石井館長)

全部LEDです。全部入れ替えました。

(岡副会長)

それなら、調光が出来るので良かったです。ハロゲンにすると赤くなるので、LEDにしないといけないと思ったので良かったです。

(石井館長)

以前も「暗い」と言われるぐらい暗かったのです。

(事務局：竹村)

照明スポットライトについては、先ほどご覧いただいた歴史資料展示室のみ古いものが混ざっていますが、2階の企画展示室は優先的にすべてLEDのものに交換しました。

(飯尾委員)

先ほどの art resonance Vol.01 は、これから毎年シリーズで行われるのですか？

(石井館長)

今までも同じ繰り返しでやっていますので、その考え方で結構だと思います。

(飯尾委員)

シリーズ展ということで、既存のコレクションと現代作家の作品、作家の解釈を加えて構成する

というのは興味深いし、コレクションする良い機会になるので、良い企画だと楽しみにしています。

(藪田会長)

単館ですか？どこかと協力してやるのですか？

(石井館長)

協力というか、学芸員でいつもお世話になっている色々な方のコレクションの中で以前からお話をして、相談しながら作り上げていくという形です。今おっしゃっていただいたようにコレクションを上手く使いながら、それぞれを扱いながらやっていくというのが、コレクションを生かせると思います。単に現代美術をやるというだけでなく、コレクションを高めていくという良い形になっていると思います。それを皆に見て頂けるのかなと思います。

(岡副会長)

芦屋市立美術館の常設展示とは何か？歴史の事は頑張ってやられていますが、神戸市立小磯記念美術館なら小磯良平のものが観られるということになりますが、芦屋市立美術館なら小出檜重と吉原治良と具体美術の作品は常設展示で観ることが出来る、いつ行っても観ることが出来る、今日は何も展示していない、という事がないように出来ないのかなと思って、スペース的に難しいのかと思いました。いつも、全部総入れ替えになってしまうので、そうすると、小出檜重を観たいと、学生を連れて来ようと思っても観ることができません。芦屋市立美術館に行けば小出は観られるとか、そういう常設展示をする場所とか、あるいは、年に何か月かは、そういう芦屋の美術の企画が、企画展とは別にがあると我々としては有難いです。具体美術作品は大きな作品でなくても作家ラインナップ、芦屋ベストテンみたいな、作家で伊藤継郎を含めて、それが出来たら、それともし出来れば、古いところの福田眉仙の日本画も含めて、戦前の芦屋ゆかりの日本画家、洋画家を観ることが出来たら良いと思います。これは要望です。全部入れ替える芦屋市展がある以外は。本当は芦屋市展の時に、それを観てもらおうようにしたら、芦屋の美術を市展の入賞者が観る、そして伝統あるリスpektする芦屋の巨匠たちを観せる、そういう風にしてリピートしてもらえたらいいと思います。ギャラリーとしての役割を果たすのも良いですが、ミュージアムとしての役割はそういう事ではないかと思っています。

(飯尾委員)

いつ行っても同じ作品を観ることが出来る安心感があって、アイデンティティを示すのに効果的だと思いますが、一方で私たちが課題にしていますのが、何千、何百あるコレクションの中で展示出来るのは、ほんの少しの割合なので、他のコレクションをどう活用しているのかと問われる事が時々あります。なかなかコレクション展で展示できる点数は、全コレクションのほんの僅かなパーセンテージなので、それをどういう風に見せていくか、活用していますと示していくのが難しいです。展示だけでは難しいと思っています。それをこれからどう美術館で活用して公開していくのかというのが、美術館だけでなく、私たちも課題にしています。

(藪田会長)

兵庫県立美術館も具体美術というのが一つの旗頭になっています。それは、コレクションギャラリーで展示するのが確保されている。規模が全然違いますが、美術館ではそういう点をどうされるか、具体美術という形でいくのか、もしくは、芦屋ゆかりのという方がいいのか、岡副会長から出た意見として、それは私もはっきりした方が良いと思います。それが美術館に対する期待感というのを自他共に認め合う形になっていると思います。今とても大事な議論だと思います。皆さん、どうでしょうか？

(安部委員)

コレクションがありますので、それをいつ来ても観られるというのは、以前から岡副会長が言われていたと思いますが、子どもたちが来て「これ芦屋の作家さんなんだ」とか、そうすると子どもが観ることが出来ます。子どもが来ても「これ芦屋のやつや」とか、今回、山手小学校の伊藤継郎の作品が展示されています。子どもたちには言っていますが、美術博物館行ったら飾ってあるよと、そういうような美術博物館に来ないと観れないような作品を、常設として展示するのは大事だと思いますし、それと抽象ばかりになってきたら「難しい」と感じる作品もあると思うし、そうではなくて、色んな人が楽しめるような作品、同じ空間だが少し違うとか、バラエティーに富んだ作品を展示することも大切だと思います。たくさん数があつて無理ならば、SNSで公開という色んな方法があると思うので、色んなメディアもSNSを活用しながら、ここに来たらこれが観られるというのをどんどん入れていったら良いと思います。

(岡副会長)

美術博物館は壁面がないですかね。今回、1階ホールだけでとなると、上がって行くと違う企画展示になってしまいます。12mぐらいあれば一つ、6、7点でなんとか出来ないかなと思います。1階ホールの壁面は曲面になっているが、具体美術の作品は大きいですからね。そういうのを含めた常設展示の試みというのはどうでしょうか。

(石井館長)

前にやったことがあるのが、1階のエレベーター横の壁に1点ずつ飾るというのをやったことがあります。歴史資料展示室で企画の中で何かと絡めて絵画作品を展示するするというような、後は場所がなかなかないです。

(岡副会長)

歴史資料展示室はガラスケースの展示ですから日本画とか屏風とかでしたらいいのですが、もったいないです。私のイメージは企画展示ではなくて、常設は2か月、3か月に1回変わるけれども、ラインナップがある。所蔵品が枯渇するわけではないから、芦屋はやっぱ小出檜重だと思うんですよね。信濃橋洋画研究所で田村孝之介を含めた面々が、今回、すごく強く出されています。吉原治良がいて、長谷川三郎がいて、具体美術の作家たちが伊藤継郎に学ぶという、それが同窓的な意味になっていて、そこが発信基地になっていて、小磯良平のような巨大なアカデミズムではなくて、伊藤継郎という個性を出す人だから、ああいう風になっていくわけで、それが皆、腑に落ちる。美術をやっている人たちは、あれを観るとわかるんです。今回の伊藤継郎展は、すごく良い視点だと思います。美術館だから、常に大原美術館みたいな、何かそういう常設展があつた方がいいのではないかと、なんとかならないのかと私は外から見て思います。小磯記念美術館だと小磯良平が展示されているのが当たり前ですが、それは一室だけであつて、あとは企画でやっていかないと、お客様はいつも一緒だと思うから来ないです。そういう要望です。

(藪田会長)

それぞれ年間の企画を色々工夫されると思いますが、3年たったら一つの方向性が出るとか、5年たったら方向性が出てくるとか、そういうことも美術博物館で考えていただけたらというご意見だと思います。

(興津委員)

公的な美術博物館として、収集はどういう風な事を、収集方針とかはお考えですか？

(事務局：竹村)

芦屋市には収集委員会という付属機関がありまして、そこで美術博物館に収蔵すべき作品について審議して、ほぼ毎年やっていますが、新作品を収蔵しています。かつては購入などもやっていましたが、近年では寄贈の申請があった作品につきまして、芦屋にゆかりがある作品を基本的に収蔵するという事になっています。学識経験者5名の委員にその作品について、この美術博物館に収蔵すべきかどうかを審議いただいて、収蔵すべきと評価された作品を収蔵しております。

（興津委員）

スペースの事もありますから、何でもかんでも無理だと思うし、予算の事もあると思いますが、阪神間モダニズムという言葉の中で映像の世紀と言われている中で、写真、映像の物がなくなるたびに棺の中に入って、どんどん消滅していくので、出来ましたら、そういう消滅してしまうものを残していくという事に力を入れて頂ければ良いかなと思っています。芦屋市議会でもそういう質問が出ていましたが、「検討する」となっていたままだと思いますので、そういう映像物、特に写真や映像、動画については、今後色々なメディアやツールが発達していく中で、歴史的なコンテンツを制作するためには過去に撮影されたオリジナルが必要になるが現実には折角撮影されたものも個人所有のものは失われていきますので、出来たらこういう公的なところで残すという努力を考えて頂けたらと思います。

（事務局：竹村）

先ほど美術作品の収蔵の場合をご説明させていただきましたが、博物部門の方も収蔵資料がありまして、歴史資料としての写真につきましては、市民の方がお持ちのアルバムとか家族写真とかそういうものを含めまして、特に50年前より古いものは、原則寄贈の申し出があった場合は寄贈していただいています。これらは歴史資料という事で、先ほどの美術品収集委員会とは別に、学芸員が学術的な価値や活用価値を判断して収蔵しております。

（興津委員）

こういう物を集めていますと声高々に言わないと、誰も寄贈してくれないので、当館はこういう物を特徴をもたして集めていきたいという事をもう少しPRするべきだと思います。当館はこの関係の資料を収集していますと、台帳がまだ整理されていないので無理かもしれませんが、市民の方にこういう物を収蔵していますと分かるようにもう少しPRすることがあってもいいのかなと思います。もちろんここだけですと、スペースもないでしょうし、劣化の問題もあるかと思いますが、小学校とかに実物を移動博物館という形で、貸し出すとかいう事もされてもいいのかもしれませんが、美術博物館が何を目的として、今年はこういう事に力を入れているかを発信しないと、誰も協力してくれないと思いますので、方針を明確にして取り組んだ方が良いと思います。

（藪田会長）

収集委員会はあるんですか？

（事務局：竹村）

美術作品の方だけですがあります。飯尾委員にも入っていただいています。

（安部委員）

この話とは違いますが、芦屋市造形展は市内の子どもたちの作品を展示させていただくのですが、令和4年度は美術博物館が休館していましたので、芦屋市民センターで規模は小さくなりましたが展示をしました。その時も展示をするかしないか、議論になりましたが、ずっと続けてきている作品展示という事で規模は小さくてもしようという事で実施しました。今年度はリニューアルされて、また美術博物館でさせていただきますが、かなり以前からお話はさせてもらっていますが、

図工の授業の時にこの近くの児童は、出品している児童、していない児童に関係なく、授業として見に来ることは出来ます。しかし、芦屋市は南北に広い街で、私たち山手の小学校では、美術博物館に来て観るだけで午前中時間が潰れてしまいます。浜風小学校、潮見小学校などの近くの学校は、行ってもすぐ帰れますが、山側の朝日ヶ丘小学校、岩園小学校は午前中潰れてしまうので、例えば、片道バスを出していただくとか、予算的なこともあるが、そういう配慮があれば、山側の学校もみんなで見に来ることが出来ます。この話は、芦屋市造形教育研究会でも出ています。何年も前からこの話はさせていただいていますが、出品した児童だけが観に来るという現状があるので、そうではなく、これだけ多くの学校から作品が出ているのを皆で観れるという場でもありますので、ぜひその辺も検討してほしいと思います。芦屋市教育委員会になると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

（藪田会長）

それは、事務局の方でご検討いただきたいと思います。

最後に、「（４）その他」について、何かございますか。

（事務局：竹村）

特にございません。

（藪田会長）

「（４）その他」については特にないのことなので、本日の議事はこれですべて終わりました。本日は、これで協議会を終了いたします。ありがとうございました。

<閉会>